

(4) 長沢配水池の被害状況

長沢配水池は、容量 256m^3 ($128\text{m}^3 \times 2$ 池) で、震度は震度 6 弱～震度 6 強と推定され、ステンレスタンクの手メーカー (B 社) による施工であった。2 池ともに被害が発生したが、1 池の被害は軽微であり、応急補修により運用可能となった。しかし、1 池は下部パネルにおいて、溶接部のみでなく母材の破断が発生している。基礎コンクリート部についてはクラック等の損傷は見られなかったが、最大 52mm の不同沈下が発生していた。また、周辺地山が 10～15cm 沈下しており、配水池周辺の土間コンクリートの亀裂・沈下が発生していた。

配水池の付近では、進入道路の石積み擁壁の亀裂、民家の壁の崩落が発生していた。

【施設諸元】

名称	長沢配水池
有効容量	$125\text{m}^3 \times 2$ 池 = 250m^3
竣工年度	平成 17 年度
材質	SUS444, SUS304, SUS324J4L
基礎形式	直接基礎



写真 5.4 長沢配水池の被害状況 (1)